

(イ) 平成 26 年度第 1 回「教養教育における学習コミュニティ型カリキュラム ―長崎大学の教養教育改革を事例として―」

京都三大学教養教育研究・推進機構 教育 IR センター 特任准教授
児玉 英明

I 概要

(1) 日時

平成 26 年 8 月 11 日(月) 14:30 ~ 17:00

(2) 場所

京都工芸繊維大学 60 周年記念館 大セミナー室

(3) 講師

山地 弘起 氏

(長崎大学 大学教育イノベーションセンター
教授)

(4) 講師略歴

東京大学法学部政治コース卒業。同大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学(教育心理学専攻)。東京大学助手、メディア教育開発センター助教授、オックスフォード大学上級共同研究員を経て、現職。

【専攻】教育心理学、身体関係論

【著書・論文】

- ・山地弘起他「米国における教養教育改革の事例 ―ワグナー大学・イーロン大学・アルバーノ大学・IUPUI の訪問調査報告―」『長崎大学 大学教育機能開発センター紀要』第 4 号、2013 年。
- ・山地弘起他「国内大学におけるアクティブラーニングの組織的実践事例」『長崎大学 大学教育機能開発センター紀要』第 3 号、2012 年。
- ・山地弘起「学生の教員印象、授業内体験、及び授業評価・授業改善への意識 ―因果モデリングの試み―」『大学教育学会誌』第 33 巻 2 号、2011 年。

II 講演要旨(山地 弘起)

長崎大学では平成 24 年度より教養教育カリキュラムを刷新し、それまで人文社会科学・人間科学・自然科学の分野配分型で実施していた教養教育を、特定テーマの科目群を履修する学習コミュニティ型(モジュール方式と呼んでいる)に変更した。テーマの数は、「健康と共生」「安全で安心できる社会」「環境問題を考える」「グローバル社会へのパスポート」など 24 を提供しているが、平成 26 年度の新学部開設に伴い、第 3 クールでは 26 となる。テーマによっては対象学部を指定し、専門教育の内容と重ならないように配慮している。

モジュール方式では、各テーマ責任者が所属する部局が責任部局となって科目群を継続的に提供する一方、科目担当者は他部局からも参加することができる。こうして形成された教員団が 1 年半の間(初年次後期~2 年時後期)同じ学生集団を教育していくという点で、モジュールは単なる科目集合体でなく、学習コミュニティ型の教養教育を実現しようとするものである。



本報告では、開始後ほぼ2年が経過したモジュール方式の成果と課題をまとめ、この新たな試みの特徴と限界、および教養教育の質保証の在り方を考え合うことができればと願っている。

Ⅲ 第1回公開研究会での 論点（児玉 英明）

（1）はじめに

ー教養教育におけるコミュニティ意識ー

人文科学・社会科学・自然科学といった分野配分型の教養教育の課題を、「学習コミュニティ」という観点から、解決策を見出そうとしているのが長崎大学の改革事例である。

日本の大学の現状を見ると、教員は大学内における個人商店のような存在で、自分の担当科目には責任を負うものの、隣接する諸科目との連携は皆無に等しい。また、相互に授業を公開し、教育改善を行う質保証の取組もなかなか進まない。

「リベラルアーツとして科目を提供する」という志を、各科目を横断する根っこの部分で共有できているのであれば、教養教育の科目担当者は、専門学部の科目担当者以上に、教員間の横のつながりや科目間の連携が可能なはずである。ところが、本来であれば、科目間の連携や教員のコミュニティ意識が生じやすいはずの教養教育の教員は、専門学部の教員以上に、タコツボ化しているように見えることもある。それだからこそ、「コミュニティ意識の醸成」を全面に掲げて、「タコツボ型」から「ササラ型」への転換を図る長崎大学の事例に注目が集まるのだろう。

（2）分野配分型に代わる 教養教育カリキュラム論のコンセプト ー全学モジュールの概要ー

従来型の教養教育のカリキュラム論は、卒業要件に従って、人文科学・社会科学・自然科学から履修するものである。人文科学・社会科学・自然科学の三分野からなる分野配分型カリキュラムに代替するカリキュラムとはどのようなものなのだろうか。

長崎大学の学生は、まず、履修説明会、シラバスを参考に、全学モジュールのテーマ（26テーマ）の中から一つのテーマを選択する。1テーマにつき、100名の定員制を設けており、定員を超えた場合は抽選を行う。

各テーマは、モジュールⅠとモジュールⅡからなる。学生は、1年次の後期に、モジュールⅠから3科目を履修する（必修）。次に、2年次にモジュールⅡから3科目を履修する（選択必修）。モジュールⅠにもモジュールⅡにも受講生の上限が設定されており、モジュールⅠの科目は定員100名、モジュールⅡの科目は定員70名である。これが学生が所属するラーニング・コミュニティの基礎組織となる。具体的なテーマ、責任部局、履修対象学部を表1に示す。

(2)学修成果の把握と質保証に向けた取組

＜表 1＞全学モジュールのテーマ・責任部局・履修対象学部¹

	モジュールのテーマ	責任部局	履修対象学部
1	先進医学と現代社会	医歯薬（医学系）	多文化社会学部・教育学部・経済学部・水産学部
2	生命と薬	医歯薬（薬学系）	多文化社会学部・教育学部・経済学部・水産学部
3	安全で安心できる社会	全ての学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部
4	教育と社会	教育学部	多文化社会学部・経済学部・薬学部・水産学部
5	現代経済と企業活動	経済学部	多文化社会学部・教育学部・薬学部・水産学部
6	環境問題を考える	環境科学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部
7	情報社会とコンピューティング	ICT 基盤センター	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部
8	グローバル社会へのパスポート	国際教育リエゾン機構	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部
9	コミュニケーション基礎講座	大学教育イノベーションセンター	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部
10	核兵器のない世界を目指して	核兵器廃絶研究センター	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部
11	環境マネジメント	産学官連携戦略本部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部
12	暮らしの中の科学	工学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部
13	世界を知り、日本を知る	多文化社会学部	教育学部・経済学部・薬学部・水産学部
14	心身の健康と生命	医歯薬（医学系）	工学部・環境科学部
15	健康と共生	医歯薬（保健系）	工学部・環境科学部
16	美と健康	医歯薬（歯学系）	工学部・環境科学部
17	安全で安心できる社会	全ての学部	医学部・歯学部・工学部・環境科学部
18	教育と社会	教育学部	医学部・歯学部・工学部・環境科学部
19	現代の教養	教育学部	医学部・歯学部・工学部・環境科学部
20	現代経済と企業活動	経済学部	医学部・歯学部・工学部・環境科学部
21	環境問題を考える	環境科学部	医学部・歯学部・工学部
22	ことばと文化とコミュニケーション	言語教育研究センター	医学部・歯学部・工学部・環境科学部
23	暮らしの中の科学	工学部	医学部・歯学部・環境科学部
24	人の暮らしと海洋生物資源	水産学部	医学部・歯学部・工学部・環境科学部
25	世界を知り、日本を知る	多文化社会学部	医学部・歯学部・工学部・環境科学部
26	夜間 安全で安心できる社会	全ての学部	経済学部夜間主コース

(3) モジュール・テーマ「現代経済と企業活動」を構成する科目群の事例とカリキュラム・マップ

「現代経済と企業活動」のモジュールⅠには、3科目が配置されている。これらの3科目（「経済活動と社会」、「企業の仕組みと行動」、「経済政策と公共部門」）は必修である。「現代経済と企業活動」のモジュールⅡには、5科目が配置されて

いる。これらの5科目（「国際社会と日本経済」、「地域社会と日本経済」、「企業行動と戦略」、「社会制度と経済活動」、「経営情報と会計情報」）から3科目を選択必修する。

履修ガイドには、「技能・表現」、「知識・理解」、「態度・志向性」の3区分を設け、その中に13の要素を設けて、各科目をカリキュラム・マップに位置づけている。「技能・表現」は6つ（①自主的探究、②批判的思考、③自己表現、④行動力、

⑤日本語コミュニケーション力、⑥英語コミュニケーション力)、「知識・理解」は3つ(①基盤的知識、②環境の意義、③多様性の意義)、「態度・志向性」は4つ(①社会貢献意欲、②学問を尊

敬する態度、③自己成長志向、④相互啓発志向)からなる。特に重視する要素には◎を付け、重視する要素には○を付けて、学士力との対応関係を明示している。

＜表2＞「現代経済と企業活動」のカリキュラム・マップ²

全学モジュールの目標 キーワード、および授業編成の視点との対応	技能・表現						知識・理解			態度・志向性				※授業編成の視点			
	① 自主的探究	② 批判的思考	③ 自己表現	④ 行動力	⑤ 日本語コミュニケーション力	⑥ 英語コミュニケーション力	⑦ 基盤的知識	⑧ 環境の意義	⑨ 多様性の意義	⑩ 社会貢献意欲	⑪ 学問を尊敬する態度	⑫ 自己成長志向	⑬ 相互啓発志向	A 哲学的な切り口	B 歴史・時空を扱う	C 現代的な話題を取り入れる	D アクティブラーニングの活用
経済活動と社会	◎	◎	○		○		◎		○	○	◎	○	○			◎	○
企業の仕組みと行動	○	◎					◎			○	○	○				◎	
経済政策と公共部門	◎	◎					◎		○	○	◎	○				○	
国際社会と日本経済 Global society and Japanese economy	◎	◎	○			◎	◎		○	○	○	○	○		○	◎	
地域社会と日本経済	◎	◎	○		○		◎		○	○	◎	○	○		◎	○	
企業行動と戦略	◎	○	○		○		◎	○	○	◎	○	◎		○	◎	○	○
社会制度と経済活動	◎	◎	○		○		◎				◎	○				◎	
経営情報と会計情報	○		◎	◎	◎		○		◎		○	○					○
◎(特に重要)の数	6	6	1	1	1	1	7	0	1	1	4	1	0	0	2	4	0
○(重視)の数	2	1	5	0	4	0	1	1	5	5	4	7	3	1	1	3	3

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

(4) カリキュラム・マップにおける授業編成の視点 ー「現代社会との接点」と「アクティブラーニング」ー

モジュールのテーマ群からも分かるとおり、現実社会との関連性を意識したテーマ設定を行っている。教養教育科目として、その学問分野の概論

を教えることにとどまるのではなく、もっと現実との接点の上で、教養教育カリキュラムを設計している。そのため、カリキュラム・マップには、「授業編成の視点」という項目が設けられ、そこには「現代的な話題を取り入れる」や「アクティブラーニングの活用」という項目が設けられている点に特徴がある。

日本学術会議『大学教育の分野別質保証の在り

方について』においても、教養教育の質保証を図る上で、現代的な話題を取り入れることやアクティブ・ラーニングの活用が指摘されている。「現代社会の諸問題を題材として、『現状がなぜこのようになっているのか』という疑問を共有し、教員が自ら応答し、あるいはファシリテータとして学生の調査や相互の議論を支援しながら、『現状をどのように変えるべきか』を徹底的に考える／させることは、このために重要な意義を持つはずである。」³

(5) 授業公開とティーチング・コミュニティ

京都三大学教養教育研究・推進機構でも、教養教育を担当する教員のファカルティ・ディベロップメントとして「科目担当者会議」を開催している。長崎大学から学ぶべきことは、科目担当者会議を開催する際に、そこに参加する教員が「ティーチング・コミュニティ」の意識を持った上で、授業改善の取組を進めることだろう。

カリキュラム・マップの考え方に立てば、授業は、個人商店としての教員の所有物ではない。教員は、あくまでも、カリキュラム・マップに位置づけられた役割を担うのであり、そこにおいては隣接科目との連携は当たり前である。隣接科目と連携するためには、その前提として授業内容のより一層の公開が求められる。担当者が授業内容を積極的に公開することで、教員間の対話を促し、ティーチング・コミュニティの醸成につなげていくことが教養教育の質保証を実質化する一方法である。

(6) 教養教育の質保証を構成する五つの要素

教養教育の質保証を構成する要素として、長崎

大学の事例から学ぶべき点は、次の五点である。

第一に、教養教育におけるコミュニティ意識の醸成である。第二に、積極的な授業公開による科目間連携の推進である。第三に、現実社会との接点を持った課題解決志向のカリキュラムである。第四に、学生の思考を促すために、ディスカッションやファシリテーションといった手法を取り入れたアクティブ・ラーニングの導入である。第五に、教養教育科目と学士力の対応関係を明示したカリキュラム・マップの作成とその学修成果測定である。

(7) おわりに ー今後検討が必要な論点ー

今後検討が必要な点は、次の二点である。第一に、モジュールとは副専攻制度に近いものであり、体系的に学べるという利点はあるものの、その反面、履修の範囲がモジュール内に限られてしまうことである。第二に、カリキュラム・マップを作成することで、教養教育の学修成果を汎用的技能との関連で測定することが適切かどうかである。

コミュニティ意識の醸成という点では賛同できるが、上記二つの論点に関しては、教養教育担当者の間でも、意見が割れるところだろう。

¹「全学モジュールテーマガイドブック」より著者作成。
<http://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/course/all/module/thema/index.html>

²「全学モジュールテーマガイドブック」より転載。
<http://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/course/all/module/thema/pdf/14-A5.pdf>

³ 日本学術会議『大学教育の分野別質保証の在り方について』2010年、30頁。